

山陰線 東松江駅構内 線路設備確認の原因と対策について

2025年7月23日、山陰線 東松江駅構内で線路設備の確認を実施した事象について、その原因と対策をお知らせします。ご利用のお客様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めてまいります。

1 発生日時

2025年7月23日（水）14時36分頃

2 発生場所

山陰線 東松江駅構内

3 関係列車

上り特急列車 2両編成 スーパーまつかぜ10号
益田駅(12:14)発 鳥取駅(16:02)着

4 概 況

7月23日（木）14時36分頃、上記列車の運転士は東松江駅を通過中、車両に通常と異なる揺れを認め停車しました。車両点検を実施し異常が認められなかったため、14時53分に運転を再開しました。

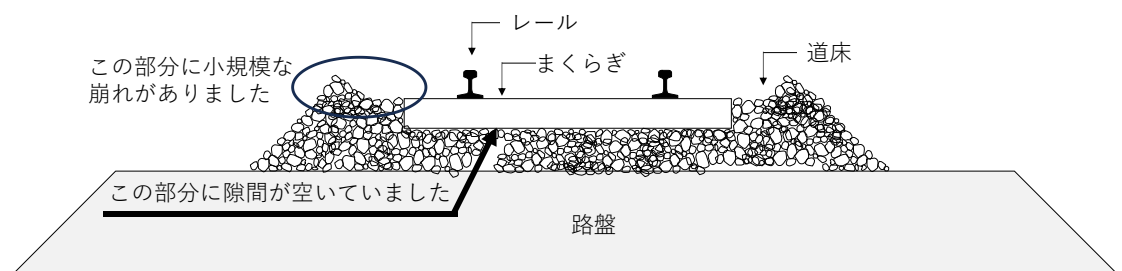
設備点検の結果、レールにゆがみが生じていたため山陰線 米子駅～松江駅間の上下線で運転を見合わせて復旧作業を実施しました。復旧作業終了後、20時55分に運転を再開しました。

5 列車影響

〈運 休〉 33本（下り17本 上り16本）
〈遅 れ〉 68本（下り34本 上り34本）最大 463分
〈影響人員〉 約3,000人

6 主な原因

気温の上昇によりレールが熱膨張し、内部に応力が蓄積されていたこと、また道床の小規模な崩れや隙間が生じていたことなども相まって、部分的にレールのゆがみに対する抵抗力が不足していたものと推定されます。



7 対 策

道床の隙間を埋める作業や形状を戻す作業を実施し、所定の抵抗力を確保しました。同様の事象を発生させないため、本事象の原因および点検時の着眼点について教育・周知を徹底します。